

本当の教えに出会うことは「生きる」ことから、「生かされる」ことへの大転換

無碍の一道 第23号

発行:2013年3月11日
発行者:浄土真宗本願寺派 長尾山 天龍寺
〒739-0147 副住職 天野英昭
東広島市八本松西6丁目10番1号
☎・FAX 082-428-0160・082-428-1360

天龍寺仏教婦人会法座並びに演奏会のご案内

日時 4月14日(日) 10:00~15:30頃
ご講師 清胤 祐子師(安芸太田町 正覚寺坊守)
演奏者 野々村彩乃(声楽)・神田彩花(声楽)・田中紗都子(ピアノ)
日程 10:00 音楽法要(敬礼文・三帰依文・さんだんの歌)
初参式
11:00 演奏会(午前の部)
11:30 演奏会終了
11:30~13:00 昼食
13:00 追悼法要
13:30~14:45 法座
15:00 演奏会(午後の部)
15:30 演奏会終了



- 備考
- ・演奏会の席が午前の部(70席)・午後の部(70席)しか、ご用意出来ません。大変申し訳ございませんが、演奏会のみご参加していただきます方は、**4月6日(土)**までに当山までご連絡をいただければ幸いです。なお、演奏会のみの方は入場料として500円をいただいております。ご了承ください。
 - ・当日は混雑が予想されますので、出来る限り乗りあわせの上、ご参詣いただきますよう、この点も重ねてお願い申し上げます。
 - ・誠に申し訳ございませんが、定員になりしだい、締め切らせていただきます。

第19回歎異抄輪読会

日時 3月21日(木) 19:00~20:30頃
ご講師 松田正典先生(広島大学名誉教授)
費用 500円

参加者 天龍寺の門信徒の方のみならず、どなたでも参加は自由です。

★第9回コーラス練習

3月18日(月) 9:30~11:30

会員の方のみならず、どなたでも参加は自由です。情景を思い浮かべながらのびやかに歌う練習をしています。みなさまのお越しをお待ちしております。

★天龍寺仏教壮年会 定例会

3月30日(土) 19:00~20:30

★ダーナ募金にご協力を賜り誠にありがとうございました。

毎年 2 月～3 月にかけて、ダーナ募金活動を行っております。今年もみなさまのご協力・ご支援をいただきましたこと、書面をお借りしてお礼を申し上げます。

演奏者プロフィール

ソプラノ 野々村彩乃

山口県下関市出身、見真学園広島音楽高等学校卒業

国内最高峰の全日本学生音楽コンクール 1 位をはじめ、高校在学中より数々の音楽コンクールにて上位受賞。

春の選抜高校野球開会式（甲子園）や、広島カープ開幕戦（マツダスタジアム）での国歌独唱をつとめる。

昨年の第66回全日本学生音楽コンクール全国大会・声楽部門大学の部で1位受賞。

現在大阪音楽大学4回生在籍

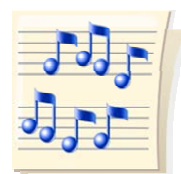
ソプラノ 神田彩花

広島市出身、見真学園広島音楽高等学校卒業

エリザベト音楽大学特別選抜生として入学。

第11回大阪音楽交際音楽コンクール入選

現在エリザベト音楽大学4回生在籍



ピアノ 田中紗都子

呉市出身、呉三津田高等学校卒業

エリザベト音楽大学器楽科ピアノ専攻4回生在籍

広島県を中心に、コンサート、イベント、パーティー等、ジャンルに捉われない演奏活動を行っている。

人は何故に生きていかななくてはならないのでしょうか？

少し高飛車な言い方になりますが、失礼の段お許しをいただければと思います。

政治・経済・科学・医療技術等の進歩・発展は、「人が一度の人生を出来るだけ長く生き、しかも生きている間はより快適に豊かに暮らす」等のための手段・方法なのかなと考えることがあります。また、食べるためには、身を粉にして働かなくてははいけません。しかし、食べていてもいつかは死を迎えます。何のために今の様に悩み・苦しみ・悲しみ等に出会いながら生きていかななくてはならないのでしょうか。

病苦にあえぐ人は、健康の支えが傾いたからでしょう。失恋に泣くのは、恋人に裏切られたからかも知れません。また、この3年間夫や妻を失い、子供に先立たれたご遺族・ご親族の方には、本当に辛く・悲しいご縁等に立ち会わせていただいたこともありました。その様なご縁に会うたびに、厭世的な言い方になるかもしれませんが、やっとの思いで幸福を手にした瞬間から、苦しみ・悲しみ・悩み等の魔の手が足下から背後から近づいているのかも知れないと考えさせられる時がありました。

残念ながら、恋人・健康・財産・名誉等は、私たちに幸せ・喜びを与えます。しかしながら、私たちに幸せ等を与える物は、時にして不幸や涙の原因になるものもあるのかも知れません。これらの支えが倒れた時、人間の価値観で言うところの幸福も崩壊し、悲しみに沈まなければならないのかも知れません。諸行無常の如く、一切の滅びる中に、滅びざる幸せと申しませうか。

・・・（続きは寺報24号に記載させていただきます。）